

第6章 IOC 総会

第6章 IOC総会

第1節 IOC総会の概要

IOC総会とは、IOC委員による全体会議であり、IOCの最高意思決定機関である。通常総会は、年に1度開催される。

第125次IOC総会はアルゼンチン共和国ブエノスアイレス市で平成25（2013）年9月7日から10日の全4日間の日程で開催され、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市を決定する投票は、総会初日の9月7日に行われた。また、今回の総会では、8日に2020年大会での新規採用競技、10日にはIOCの会長選挙が実施された。

プレゼンターをはじめとする東京の代表団は、招致活動の総仕上げとして投票の数日前から順次現地入りし、各種イベントの開催やIOC委員へのプロモーション活動を積極的に展開し、最終プレゼンテーションに臨んだ。

1 IOC総会の主要日程

月日	時間	内容
9月2日	13:30~16:00	テクニカルリハーサル
9月3日	14:30~18:30	公式リハーサル
	18:45~19:00	開催都市契約事前署名*
9月5日	10:45~12:30	公式リハーサル（ドレスリハーサル）
9月6日	19:00~	IOC総会オープニングセレモニー
	20:00~	レセプション
9月7日 (IOC総会)	8:45~9:00	IOC総会開会挨拶
	9:00~10:10	イスタンブールのプレゼンテーション
	10:30~11:40	東京のプレゼンテーション
	(10:35~11:20)	(プレゼンテーション〔45分〕)
	(11:20~11:35)	(質疑応答〔15分〕)
	11:55~	東京の記者会見
	12:05~13:05	マドリードのプレゼンテーション
	15:00~15:30	IOC評価委員会からIOC委員への報告
	15:45~16:00	投票
	17:00~17:30	開催都市発表セレモニー
	17:30~	IOC主催レセプション
	18:30~	開催都市契約締結、IOCとの合同記者会見
19:30~22:00	祝勝会*	

*・・・IOC公式日程以外の催事

2 IOC公式日程

(1) 開催都市契約事前署名

総会前日に、竹田招致委員会理事長と猪瀬都知事の2名が総会会場内のIOC事務局において署名を行った。

(2) IOC総会開会式及びレセプション

総会前日に、ブエノスアイレス市内のコロン劇場で開会式とレセプションが実施された。各都市からの出席者は、AD保有者のうちから100名とされ、その内10名は開会式の際にIOC委員や要人等と共に1階フロアへの着席が認められた。

開会式では、ロゲ会長等の挨拶とタンゴ上演が行われ、引き続いて立食のレセプションとなり、この機会を活用して最後の直接プロモーション活動を実施した。

〈開会式等出席者〉

竹田招致委員会理事長、水野招致委員会専務理事、安倍首相、森元首相、猪瀬都知事、荒木田スポーツディレクター

※ このほか、招致委員会関係者等94名が参加した。

(3) IOC総会

総会当日の朝、プレゼンターは、東京2020のリハーサル会場として使用していた大学で、当日のスケジュール等の最終確認を行った後、バスでIOC総会会場へ出発した。ホテル入口には、東京からのサポーターも集合し、バスに乗り込む東京代表団へ声援を送った。総会会場では、IOCが各立候補都市用に準備した待合スペース（グリーンルーム）で待機し、プレゼンテーションに向けた最終調整をした。

プレゼンテーションと記者会見終了後、プレゼンター及び登壇者は一旦大学に戻り、昼食をとった。その後、再び総会会場に移動し、会場内で投票結果を見守った。

第2節 IOC総会に向けた準備

1 公式事前視察

平成25(2013)年7月16日及び17日に、IOC主催による立候補都市向けの現地(ブエノスアイレス市)事前視察が行われ、IOC側による総会関係のスケジュール説明及び総会会場等関係施設の案内があった。

各立候補都市から実務担当者が出席し、各都市とも詳細にわたり活発な質問を行った。

また、各立候補都市の本番の手の内が明かされないよう、都市別の質疑応答時間が設けられるなど、IOC側の配慮もあった。

IOCにより各立候補都市に対して現地ブエノスアイレスのNOCから連絡調整担当が一名割り当てられ、公式事前視察以降、現地の情報収集やIOC側との連絡調整について支援を得た。

【公式事前視察日程】

月 日	内 容
7月16日	全体説明 全体質疑応答 総会会場視察 開会式会場視察
7月17日	立候補都市別質疑応答 立候補都市の事務局設置ホテル視察 パブリックビューイング会場視察 リハーサル会場視察

2 準備に係るIOCとの調整

IOCからの通知を受け、回答期限を目途に必要な準備を行った。なお、期限までの回答が難しい内容については、直接IOCと調整を行い回答をした。

IOCからの通知内容	通知日	回答等期限
総会会場オフィス備品注文	5月24日	6月28日
参加者ア kredィテーション登録 (要人の氏名登録含む)	7月16日	8月30日
IOC公式HPで放映する映像提出	5月17日	6月17日
プレゼンテーション映像のビデオ提出	4月5日	9月2日
登壇者(プレゼンター含む)及び 開会式出席者リスト提出	7月16日	9月3日

3 ア kredィテーション登録

総会会場及びIOC委員宿泊ホテルへの入場は、IOCから付与されるア kredィテーションを取得した者に限定された。本総会においては、各都市の申請に基づいたAD100枚(プレゼンターを含む)のほか、技術者5枚、

通訳者2枚のADが付与された（IOC委員1名、IOC名誉委員1名については別途登録）。

また、IOCから同年6月28日までにADコーディネータを指名し、通知するよう連絡があった。

IOCに対するAD申請の登録期限は8月30日であったため、登録情報の収集期間等を考慮すると、8月中旬までに登録者を決定する必要があった。

登録者を検討するうえでの考慮すべき事項は次のとおりであった。

- ・ プレゼンテーションで訴えるメッセージとの連動（アスリート及びユースの起用）
- ・ 直接プロモーション活動のためIOC委員との面識（JOC役員及び競技団体関係者）
- ・ 総理大臣出席に伴う政府関係者枠の確保
- ・ 開催都市契約署名者を含むこと

以上の事項を踏まえた上で、常時ADを保有する者と適宜ADを変更して対応する者に分けて付与者の選定を行った。

<AD登録者>

登壇者（プレゼンター含む）・総会出席者・スポーツ関係者・国会議員・政府関係者・東京都・招致委員会関係者 等

4 ユニフォーム

IOC総会において、チームとしての一体感を醸成し、IOC委員に対して強くアピールするため、近年の立候補都市は統一したユニフォームを着用している。このため、招致委員会では、同年5月からユニフォームの検討を開始し、東京招致オフィシャルパートナーである株式会社AOKIホールディングスにデザインと制作を依頼した。ユニフォームは、登壇者用（紺のジャケット、ライトグレーのボトム）、東京都代表団用（ライトグレーのジャケット・ボトム）の2種類で作成した。また、女性は、2つのボトムス（パンツ・スカート）からそれぞれ1つ選んで制作した。



IOC総会に出席したプレゼンター及び登壇者



TOKYO 2020 アスリート委員会

第3節 出陣式

開催都市が決定する平成25(2013)年9月7日のIOC総会に向けて、オリンピックの招致気運を国内外にアピールすることを目的として、同年8月、IOC総会へ出席するメンバーを中心とした記者会見及び関係者による出陣式が行われた。

1 記者会見及び出陣式

(1) 記者会見

実施日：平成25(2013)年8月23日16時30分から

実施場所：都庁第一本庁舎7階ホール

登壇者：竹田招致委員会理事長、猪瀬都知事、水野招致委員会専務理事、太田招致アンバサダー、佐藤真海パラリンピアン、滝川招致Cool Tokyoアンバサダー、荒木田スポーツディレクター

概要：「最後のプレゼンテーションでは、東京の持つ、安全性、輸送システム、強固な財政力、そういう側面をさらに強調しながら、平和のトップリーダーである、日本の存在感を示したい」と述べ、「チーム日本は最高のチームワークで戦い抜く」ことを表明した。

(2) 出陣式

実施日：平成25(2013)年8月23日17時30分から

実施場所：都庁第一本庁舎5階大会議場

参加者：関係者約800人

概要：式典は都立深沢高校の和太鼓演技で開式。主催者、来賓の挨拶に続き、招致スペシャルアンバサダーのドラえもんが応援メッセージを贈った。その後も、東京女子体育大学新体操競技部による応援の演技が披露された。

最後に竹田招致委員会理事長より決意表明、都議会招致議員連盟のエンターテインメントで締めくくった。

式次第：開会前演技 都立深沢高等学校和太鼓部

主催者挨拶 東京都知事 猪瀬直樹

来賓挨拶 内閣総理大臣 安倍晋三

来賓挨拶 元内閣総理大臣 森 喜朗

来賓挨拶 日本経済団体連合会会長 米倉弘昌

応援メッセージ 招致スペシャルアンバサダー

ドラえもん

乾杯の辞 日本サッカー協会最高顧問 川淵三郎

応援アトラクション 東京女子体育大学新体操部
競技部
決意表明 東京 2020 オリンピック・パラリン
ピック
招致委員会理事長 竹田恆和
エール 東京都議会オリンピック・パラリン
ピック
招致議員連盟会長 川井しげお
フォトセッション

第4節 総理大臣のIOC総会出席など国との調整・連携

日本政府による2020年招致への全面的な支援をIOC委員に対して積極的にアピールする観点から、IOC総会のプレゼンテーションでは、政府代表として、安倍首相が出席することとなった。安倍首相の出席に向け、外務省人物交流室が調整を進め、招致委員会事務局が窓口となった。IOC総会のプレゼンテーションでは、安倍首相から、2020年大会に対する政府の全面的サポート、オリンピックスタジアムとして使用される新国立競技場の建設、政府が今後新たに実施予定の世界へのスポーツによる国際貢献策「スポーツ・フォー・トゥモロー」（学校建設や資材提供、スポーツ教育プログラムの構築など）について、英語によりIOC委員に対してアピールした。また、IOC総会時に海外メディア等で取り上げられていた福島原発の汚染水問題についても、状況は制御下にあることを力強く説明するとともに、質疑応答においても的確に回答した。

開催都市が決定するIOC総会において、内閣総理大臣をはじめ政府関係者等からIOC委員に対して働きかけることは、政府の大会に対する全面的なサポート、オリンピックムーブメントや大会招致への熱意を伝達する上でも極めて重要なことである。このため、IOC総会が開催されるヒルトンホテル内においてIOC事務局から提供されたコネクティングルームを活用して、IOC委員に対して、オールジャパン体制で働きかけを行った。

竹田理事長、猪瀬都知事、水野専務理事、荒木田スポーツディレクター他招致委員会関係者、経済界から張トヨタ名誉会長、鳥原東京ガス会長（日本パラリンピック協会委員長）がIOC委員に対して働きかけを行ったほか、都議会から、吉野利明議長、川井しげお招致議連会長等、政府・国会から安倍首相、森元首相、下村文科大臣、岸田文雄外務大臣、若林健太外務政務官、招致議連の遠藤議員、橋本議員、馳議員、河村建夫議員、中曽根弘文議員、浮島とも子議員等がIOC委員に対して働きかけを行った。また、日本オリンピック委員会（JOC）、国内競技団体16団体の役員28名を含むスポーツ関係者が働きかけを行った。

なお、上記国際プロモーション活動とは別に、サッカー関係行事にご出席のためブエノスアイレスを訪問されていた高円宮妃殿下（日本サッカー協会名誉総裁）、震災復興に対する支援に謝意を表明するためにブエノスアイレスを訪問されていた三笠宮彬子女王殿下が、国際親善の観点から、IOC委員と面会された。

第5節 開催都市決定応援ツアー

招致サポーターに招致決定の瞬間の現地の雰囲気を感じてもらい、IOC 総会に出席する東京のプレゼンター等を鼓舞する場を提供するため、「2020年 オリンピック・パラリンピック 開催都市決定 東京応援ツアー」を開催した。招致委員会オフィシャルパートナーの旅行会社3社が、各々ツアーを企画し、約100名が参加した。

ツアースケジュール例は、以下のとおりである。

日付	場所	行程
9月5日	成田空港	日本発
9月6日	ブエノスアイレス・エセイサ空港	ブエノスアイレス着
9月7日	ブエノスアイレス	・第125次IOC 総会 ・開催都市決定の様態をパブリックビューイング・レセプション
9月8日	ブエノスアイレス・エセイサ空港	ブエノスアイレス発
9月10日	成田空港	日本着

プレゼンター等 IOC 総会出席者は午前8時頃に宿泊ホテルから会場へバスで出発した。当日は雨であったが、多くの応援ツアー客や都議団が宿泊ホテル入口で声援をおくった。こうした激励は、竹田招致委員会理事長以下IOC 総会出席者の士気を高めた。

また、宿泊ホテル内に設けたパブリックビューイング会場は応援ツアー客、都議団、職員、関係者などで埋め尽くされた。途中、太田選手や佐藤選手などアスリートらが来場し会場が更に盛上った。開催都市が発表された瞬間、会場からは歓声が沸き起こり、その後「東京」コールが暫く続いた。

(代表団への声援)



(パブリックビューイング)



第6節 都議団の派遣

1 概要

9月7日の開催都市決定に向けて、IOC 総会が行われるアルゼンチン・ブエノスアイレス市で、招致委員会と都が一体となった招致活動を実施するため、都議会から議員団が派遣された。

2 期間

平成25（2013）年9月5日から9月10日までの6日間

3 派遣団

（敬称略）

	氏名	所属会派
団長（議長）	吉野 利明	東京都議会自由民主党
副団長	川井 しげお	東京都議会自由民主党
団員	吉原 修	東京都議会自由民主党
	高橋 かずみ	東京都議会自由民主党
	林田 武	東京都議会自由民主党
	きたしろ 勝彦	東京都議会自由民主党
	鈴木 隆道	東京都議会自由民主党
	山崎 一輝	東京都議会自由民主党
	中嶋 義雄	都議会公明党
	橘 正剛	都議会公明党
	小林 健二	都議会公明党
	酒井 大史	都議会民主党
	石毛 しげる	都議会民主党
	両角 みのる	みんなの党
野上 ゆきえ	都議会みんなの党	



市議会関係者等へアピール



IOC総会へ出発

4 視察日程

月 日	内 容
9月5日	成田空港発
9月6日	ブエノスアイレス国際空港着 ブエノスアイレス市議会訪問 IOC 主催オープニングセレモニー出席
9月7日	代表団の見送り 東京プレゼンテーション視聴 開催都市発表視聴 祝勝会出席
9月8日	ブエノスアイレス国際空港発
9月9日	機内泊
9月10日	成田空港着

9月6日、ブエノスアイレス市議会を表敬訪問。吉野団長が今回のブエノスアイレス訪問の趣旨を述べられ、市議会関係者や詰め掛けた地元報道関係者を前に、東京招致に向けた強い決意をアピールした。

続いて、ブエノスアイレス市役所を表敬訪問。市の最高幹部と会談し、改めて、2020年大会の東京招致を強く訴えた。

訪問した市議会、市役所、いずれからも、東京開催を支持する旨の言葉を頂くことができた。

その後、派遣団を代表して、吉野団長と川井副団長はコロン劇場で開催されたIOC主催によるオープニングセレモニーに出席し、東京の熱意を示した。

9月7日、2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が決定されるIOC総会には、派遣団を代表して、吉野団長、川井副団長、吉原団員、中嶋団員の4名が出席した。そこでは、柔道の元金メダリストの山下選手を連れ立って、各国のIOC委員との挨拶やハグを交わすなど、東京の熱意を感じ取ってもらうため、投票直前までロビー活動を重ねた後、プレゼンテーションや投票の状況を見守った。

第7節 東京での招致応援活動

1 2020年オリンピック・パラリンピック開催都市決定を迎える会

都内会場においてアルゼンチンのブエノスアイレスで開催されるIOC総会の模様を中継し、これまで招致活動に携わった関係者や支援者とともに開催都市決定の瞬間を見守る「2020年オリンピック・パラリンピック開催都市決定を迎える会」を行った。

実施日：平成25(2013)年9月8日(日)午前0時30分～午前7時
なお入場は、9月7日(土)午前10時から実施

実施場所：東京商工会議所(東商ホール、国際会議場)
東京都千代田区丸の内3-2-2

参加者：関係者約1,300人

東京都/区市町村/都道府県関係者、招致委員会/JOC関係者、都議会/国会関係者、スポンサー、オリンピック/パラリンピアン、経済界、プレスほか

概要：現地ブエノスアイレスとの時差の関係から、夜更かつ長時間の式典になったため、IOC総会の中継だけでなく、応援アトラクションステージや招致活動を振り返るVTR映像を上映するなど、開催都市決定の瞬間に向けて会場を盛り上げ、東京開催決定を祈願する各種プログラムを実施した。参加人数は予想を大きく上回る約1,300名が詰めかけた。

開催都市が発表された瞬間、会場内の関係者は立ち上がり、招致獲得の万歳三唱を行った。

式次第：

- | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|
| 1) 開会 | 司会 | 松岡 修造 |
| 2) 挨拶 | | |
| 主催者挨拶 | 東京都副知事 | 秋山 俊行 |
| | 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 評議会事務総長 | 小倉 和夫 |
| | 東京商工会議所 会頭 | 岡村 正 |
| 共催者挨拶 | 日本オリンピック委員会 副会長兼専務理事 | 青木 剛 |
| | 日本障害者スポーツ協会 副会長 | |
| | 日本パラリンピック委員会 副委員長 | |
| | | 伍藤 忠春 |
| 来賓挨拶 | 文部科学副大臣 | 福井 照 |
| | 東京都議会 副議長 | 藤井 一 |

- 3) 応援アトラクションステージ
チアダンス 国士舘大学 チアダンス部 ELVESE
講演 上智大学文学部保健体育研究室教授 師岡 文男
演奏 東京消防庁音楽隊
- 4) 招致活動を振り返って
VTR上映 「招致活動これまでの軌跡」
- 5) IOC 総会中継
IOC 評価委員会による報告
第一回目投票及びタイブレーク※
※イスタンブールとマドリード同数票に伴い、同都市間再投票
決選投票及び開催都市決定発表セレモニー
- 6) 関係者からの御礼の挨拶



開催都市決定を迎える会の状況



東京開催決定に沸く会場の様子

2 その他の招致応援活動

東商ビルで行われた開催都市決定を迎える会以外にも、自主的な応援グループによる大型モニター視聴イベントなど、都内各地で「開催都市決定日イベント」が行われた。

駒沢オリンピック公園総合運動場で行われた「スポーツ博覧会・東京2013」では、124,500人ももの来場者が訪れる中、開催決定の瞬間を見守るパブリックビューイングや、2008年北京オリンピック男子400mリレー銅メダリストの朝原宣治氏を招いて、東京開催決定を願って、ミッドナイトランなどが行われた。

さらには、各関係機関に御協力いただき、東京スカイツリーや東京タワー、レインボーブリッジなど、都内各所で東京招致を祈願した特別ライトアップが実施された。また、これらの特別ライトアップは、開催都市決定後も、東京での開催を記念して引き続き実施された。



レインボーブリッジライトアップ



都庁第一本庁舎ライトアップ

第8節 プレゼンテーション

開催都市を決定するIOC総会においては、投票の直前に立候補都市がIOC委員に対して最後のプレゼンテーションを行う。この最終プレゼンテーションの印象が、IOC委員の投票行動を左右するとも言われており、立候補都市は、招致への情熱をもってIOC委員の心に強烈にアピールするプレゼンテーションを行う必要がある。

このため、最終プレゼンテーションには、国家首脳が登壇し、国の総力を結集してアピールする都市が多く、今回も、イスタンブールはエルドアン首相、東京は安倍首相、マドリードはラホイ首相が登壇した。

1 事前準備

2020年招致では、IOCより4回の国際プレゼンテーションの機会が与えられた。このため、評価委員会来日対応後4回のプレゼンテーションについて、全体戦略及び各々のプレゼンテーションで打ち出す内容について、3月中旬より検討を開始した。この結果、他都市との差別化を図るため、5月・6月のスポーツアコードやANOCでは、なぜ、東京で開催するのか、どのような大会を実現できるのかという、Why & Howの両立が重要であることの意識醸成をはかることとした。そして7月のテクニカル・ブリーフィング及び9月のIOC総会では、Why & How*で他都市に圧倒的に差をつけるコミュニケーション戦略にて、東京の強さと情熱を訴えていくという方向性で進めることとなった。

※ Why & How：「東京は何故大会を開催したのか」「どのように素晴らしい大会を実現するのか」の両方に明確な回答を有していることを訴えた。

プレゼンテーションの事前準備

平成25年 (2013)	3月	国際プレゼンテーションの戦略検討開始		
	4月	国際プレゼンテーションの戦略検討 スポーツアコードプレゼンテーション骨子検討		
	5月	ANOCプレゼンテーション骨子検討 スポーツアコードプレゼンテーション		
	6月	ANOCプレゼンテーション テクニカル・ブリーフィング骨子検討		
	7月	テクニカル・ブリーフィング IOC総会プレゼンテーション骨子決定		
	8月	スクリプト 及びスライド作成	映像撮影・ 編集	
	9月	編集作業		
		本番		

7月のテクニカル・ブリーフィング終了後、IOC総会でのプレゼンテーションについて、内容やプレゼンターについて検討を開始した。

また、海外コンサルタントのアドバイスを受けながら、全体構成案や映像の構成案を作成・決定した。

8月から9月にかけて、映像の撮影、プレゼンテーション原稿や背景に流すスライドの作成を実施した。また、並行してIOC委員に会場で配布する資料を作成した。

2 現地でのリハーサルからIOC総会本番へ

プレゼンターは、事前に現地入りし、日本人にとって苦手と言われる「情熱」をいかにIOC委員に伝えるか、という点に力をいれた。具体的には、リハーサル会場において、プレゼンター1人ひとりが、招致活動に経験豊富なコンサルタントから指導を受け、自分の言葉で伝えられるように練習を重ねて表現力に磨きをかけたほか、プレゼンター全員が一つのチームとなり、グループでのリハーサルにも十分時間をかけに取り組んだ。

9月3日（14時30分から18時30分）及び5日（13時30分から16時00分）に総会会場において公式リハーサルが実施された。3日のリハーサルでは、IOC事務局からの簡単な説明の後、全体を通じたリハーサルや座席位置、総会出席者の動線確認を行った。5日のリハーサルでは、1度のランスルーののち、技術的な動作確認を行った。

本番のプレゼンテーションでは、まず、宮城県気仙沼市出身のパラリンピアンである佐藤選手が登壇し、スポーツの持つ力の大きさについて語った。また竹田理事長、安倍首相、猪瀬都知事らが登壇し、不確実な時代において確実に大会を開催することによってオリンピック・ムーブメントに貢献すること、日本国政府の全面的な支援を力強く訴えた。さらに、現役のオリンピック太田選手や招致”Cool Tokyo”アンバサダーの滝川氏などチーム一丸となって、スポーツの持つ力・日本ならではのおもてなしの心についてプレゼンテーションを展開して、東京招致を強烈にアピールした。

なお、プレゼンテーションに先立ち、高円宮妃殿下からIOCによる東日本大震災の被災地への支援について謝辞を述べられた。

東京のプレゼンテーション構成（全文（英語及び日本語訳）は資料集「19 IOC総会におけるプレゼンテーション」参照）

プレゼンター	要 旨
佐藤 真海 （パラリンピアン）	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンターの紹介 ・ 社会におけるスポーツの果たす役割、自らの経験
映像 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ Feel the pulse
竹田 恆和 （招致委員会理事長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京のビジョン、開催動機
水野 正人 （招致委員会副理事長/ 専務理事）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会コンセプト ・ 東京、アジアのスポーツ市場
映像 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ Venues
猪瀬 直樹 （東京都知事）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全で確実な大会開催、東京の都市力（財政、輸送インフラ、宿泊施設）、東京が残すレガシー
滝川 クリステル （招致 'CoolTokyo' アンバサダー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京の魅力、おもてなしの心、大会の祝祭
映像 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ Pulse of the city
太田 雄貴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本のイノベーションとスポーツ及びオリンピック・ムーブメントへの貢献、日本人のスポーツへの情熱
安倍 晋三 （内閣総理大臣）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の支援、Sport for Tomorrow Programme
映像 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ Share the pulse
竹田 恆和 （招致委員会理事長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの力を実証する2020東京大会、アンチ・ドーピング、オリンピックムーブメントの推進

プレゼンテーションに引き続き、以下のような質疑応答が行われた

Q1 ヘリテージゾーンとベイゾーンの交通について

- ・ 東京の計画は safe pair of hands（確実に大会を成功に導く）。全ての交通についても同様である。東京の計画は非常にコンパクトで、8km圏内に85%の競技会場が集中。
- ・ アスリート、オリンピックファミリーにとって非常に短時間の移動を可能にする。非常によいオリンピックルートも確実に整備される。
- ・ 東京では、1000kmを超える鉄道網が整備され、2600万人を3分間隔で正確に輸送している。高速道路も運営され、運行も正確である。

Q2 福島の汚染水について

- ・ 皆様には、報道のヘッドラインではなく、事実を見てほしい。
- ・ 汚染水は0.3平方キロメートルの範囲内でブロックされている。
- ・ 福島の近海でモニタリングも行っているが、WHOの基準の1/500。
- ・ 日本の食品や水の基準は世界で最も厳しく、日本のどの地域でもこの基準の1/100である。

- ・ 更に抜本的に解決するプログラムを私が決定し、既に実行に移している。
- ・ かつて、被災地を訪問した際、1人の少年にあった。少年は、外国人のサッカー選手からもらったサッカーボールを誇らしげに示した。このボールは少年にとっては希望、未来への希望である。少年は福島の子を眺めながらサッカーをしているのだと思う。日本人の安全には私が責任を持って対応する。そしてまた、日本にはアスリートも世界からやってくる。彼らの安全についても、完全に責任を果たす。

Q3 競技会場の変更について

- ・ 我々は立候補ファイルに載せているすべての会場について保証する。
- ・ 11の新しい恒設会場のうち10の会場が、都所有地に整備。建設のための土地の確保は確実である。
- ・ 私たちは既に45億ドルの開催基金を有している。
- ・ これは予算ではなく基金であって、既に銀行に保管しており、明日にでも使用することができる。これらの競技会場建設のため承認され使用を許されるものである。
- ・ 新国立競技場の建設も、既にプロジェクトが進められている。(2019年のラグビー世界選手権での使用にあわせて整備される。)
- ・ 加えて、1964年大会のレガシーである会場も入念に維持管理してきた。2020年大会でもこれらの会場は使用される。
- ・ 東京が提案する全ての競技会場はIFの承認を得ている。
- ・ 私たちの、非常にコンパクトな会場コンセプトと競技会場群は、非常に綿密に練られた計画である。

第9節 最終選考結果

1 投票結果

平成25(2013)年9月7日午後5時(日本時間9月8日午前5時)より、2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市を決定するIOC委員の投票が行われた。

1回目の投票は、IOC委員103名のうち、ロゲ会長、総会欠席の委員3名、立候補都市所在国委員5名(トルコ1名、日本1名、スペイン3名)を除く97名が参加して行われた。

投票結果は、以下のとおりである。

	1回目	タイブレイク	3回目	
投票可能数	94	94	97	
投票数	94	94	97	
イスタンブール	26	49	36	
東京	42		60	★決定
マドリード	26	45		

1回目の投票で、イスタンブールとマドリードの2都市が26票で同票獲得となり、タイブレイクの結果、イスタンブールが49票を獲得し、東京と決戦投票へ進んだ。

決戦投票では、東京が60票を獲得し、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市に決定した。

※投票方法について

投票は、機械による無記名投票により行われる。1都市が過半数を獲得するまで続けられ、各回の最下位都市は脱落していく。

なお、立候補都市が所在する国のIOC委員は、自国の入る投票には参加できず、また、IOC会長は慣例で投票しないこととなっている。

2 開催都市決定後のコメント

2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市に、選出されたのを受け竹田招致委員会理事長及び猪瀬東京都知事よりコメントが発表された。

コメントの内容は次のとおりである。

(1) 竹田招致委員会理事長

2020年のオリンピック・パラリンピックの開催地として東京が選ばれたことを大変光栄に思います。IOCの皆様と世界中のスポーツ関係者の皆様に、抑えきれない興奮と共に、心からの感謝の念をお伝えします。いただいた信頼を裏切らぬよう、記憶に残る大会を開催するべく今後一層努力してまいります。また、共に良きライバルとしてこの招致活動を競ってきたイスタンブールとマドリードに対して心から敬意を表します。

この招致活動は、国、経済界、スポーツ界をはじめとする各界のご支援により一致協力した体制で取り組んでまいりました。私たちの活動を支えて下さった全ての方々に感謝申し上げます。

そして、何より、この2年間にわたる招致活動を支えて下さった国民の皆様は厚く御礼申し上げます。92%に及ぶ皆様からのご支持が私たちの招致活動の大きな支えとなりました。

オリンピック・パラリンピック開催という大きな責任を真摯に受け止め、東京の素晴らしい計画を実現させ、2020年に最高の大会を開催できるようこれからの7年間全力を注いでまいります。

(2) 猪瀬都知事

多くのIOC委員の皆様から「東京」へのご支持をいただいたことに、感謝申し上げます。

世界最大、最高のスポーツイベントであるオリンピック・パラリンピックを、東京・日本で開催できることは、大変光栄なことであり、誇りに感じています。

招致レースを競い合い、開催計画の質を高め合ったマドリッド市、イスタンブール市の皆様に、心から敬意を表するものです。

このブエノスアイレスに、日本の皆様からの応援の声、情熱が、確かに届きました。私たちの夢がかない、喜びに堪えません。

都民・国民の皆様、安倍総理をはじめ政府関係者の皆様、国会、都議会、全国の自治体、経済界、スポーツ界、そして、東京を応援いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2020年東京大会を開催することで、私たちは「希望」を創り出していきます。未来を担う子どもたちのために夢と希望を与え、被災地の復興をさらに加速させていきます。「平和でよりよい世界の実現」を目指し、世界中にオリンピックムーブメントを拡げていきます。アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を用意し、世界中から日本を訪れるお客様に素晴らしいおもてなしを提供したいと思えます。

これから7年間、オールジャパンの体制で万全の準備を進めます。アスリートに例えるならば、これからも「鍛錬」を続けることで、2020年東京大会を「最高の大会」に仕上げていきます。引き続き、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

3 開催都市契約の締結

開催都市契約とは、オリンピック競技大会の開催に向けて、IOCと、開催都市・開催国NOC・大会運営を行う大会組織委員会の4者が遵守すべき規程である。

開催都市決定後、記者会見の前に、猪瀬都知事（開催都市代表）、竹田JOC会長（開催国NOC代表）、ロゲ会長及びキャリアオン財務委員長（IOC代表）が契約書に署名した。

第10節 メディア対応

1 ブエノスアイレス市内及び都内での取組

IOC 委員が直接目にする可能性の高い海外メディアによる報道を獲得するため、現地において積極的な広報活動を展開した。

広報活動の内容は、事前の現地視察をもとに海外コンサルタントと検討を重ね決定した。期間中の具体的な取組は、以下のとおりである。

月 日	会 場	内 容
9月3日 (火)	総会会場周辺	公式リハーサル後囲み取材
9月4日 (水)	記者会見場 (シェラトン・ ブエノスアイレ ス)	東京主催記者会見① ・テーマ：アジア経済の可能性、日本企業の スポーツ界への貢献 ・登壇者：竹田招致委員会理事長、張トヨタ 自動車名誉会長、太田オリンピック・招致 アンバサダー、MIRATA (KIBO ROBOT PROJECT)
9月5日 (木)	記者会見場 (シェラトン・ ブエノスアイレ ス)	東京主催記者会見② ・テーマ：アスリート宣言 ・登壇者：荒木田裕子(委員長)、小谷実可 子(MC)、有森裕子、入江陵介、太田雄貴、 小原日登美、川淵三郎、佐藤真海、鈴木大地、 田中理恵、千田健太、成田真由美、橋本聖子、 馳浩、山下泰裕
	総会会場周辺	公式リハーサル前後に歩行中のプレゼンタ ーインタビューを行うメディアへの対応
9月6日 (金)	記者会見場 (シェラトン・ ブエノスアイレ ス)	東京主催記者会見③ ・テーマ：明日のプレゼンへの意気込み ・登壇者：猪瀬都知事、太田オリンピック・ 招致アンバサダー、滝川招致“Cool Tokyo” アンバサダー

9月7日 (土)	シェラトン・ブエノスアイレス	東京代表団出発風景の取材
	総会会場	公式記者会見① (プレゼンテーション直後) ・登壇者：竹田招致委員会理事長、安倍首相、猪瀬都知事、水野招致委員会専務理事、太田オリンピック・招致アンバサダー、滝川招致“Cool Tokyo”アンバサダー
	総会会場	公式記者会見② (IOCと主催都市の合同記者会見) ・登壇者： (IOC) ジャック・ロゲ会長、リチャード・L・カリオン理事、マーク・アダムス広報部長 (東京) 竹田招致委員会理事長、安倍首相、猪瀬都知事、水野招致委員会専務理事、荒木田招致委員会理事、太田オリンピック・招致アンバサダー
	記者会見場 (シェラトン・ブエノスアイレス)	東京主催記者会見④ ・テーマ：開催都市決定記者会見 ・登壇者：竹田招致委員会理事長、猪瀬都知事、水野招致委員会専務理事、太田オリンピック・招致アンバサダー、佐藤パラリンピアン、滝川招致“Cool Tokyo”アンバサダー
	報告会会場 (シェラトン・ブエノスアイレス)	IOC委員、プレゼンター、東京代表団、東京応援ツアーの参加者らが集まる報告会での取材
9月8日 (日)	東商ホール	「開催都市決定を迎える会」取材

9月10日 (火)	成田空港	空港到着時のプレゼンター及び東京代表団の囲み取材
	東京都庁	帰国記者会見 ・登壇者：猪瀬都知事、森招致委員会評議会副会長、水野招致委員会専務理事、吉野都議会議長、太田オリンピック・招致アンバサダー、佐藤パラリンピアン、滝川招致“Cool Tokyo”アンバサダー

2 ブエノスアイレス記者室の設置

(1) 概要

- ・ 期間：平成 25 (2013) 年9月3日～平成 25 (2013) 年9月8日
- ・ 場所：シェラトン・ブエノスアイレス 1F La pampa
- ・ 形態：記者席 150名及びワーキングスペース約 20席
管理スタッフ3名

3 メディア向け事前説明会

ブエノスアイレスにおける IOC 総会及びシェラトンホテル内記者室に関する取材概要説明会を下記の3回にわたり、日本国内メディアに実施した。

- (1) 日時：平成 25 (2013) 年7月29日
場所：東京都庁
- (2) 日時：平成 25 (2013) 年8月26日
場所：東京都庁
- (3) 日時：平成 25 (2013) 年9月4日
場所：シェラトン・ブエノスアイレス

4 記者会見

開催都市決定後、IOC と開催決定都市で合同記者会見を行った。猪瀬都知事帰国後の9月10日に、都庁内で記者会見を行った。

(1) IOC との合同記者会見

IOC との合同記者会見で竹田理事長は「我々は、オールジャパンとして活動を続けてまいりました。内閣総理大臣をはじめ、日本政府、東京都また経済界並びにスポーツ界、一丸となって大きなサポートをしてくださいました。そして、日本国民の皆様も大きなサポートをしていただきました。」等と語った。また、安倍首相は、「多くの皆様のご支援があって、今回の招致決定に至ったのだろうと、このように思うところです。いよいよ、これからが本番でありまして、期待に応えていくために、全力を尽くしていく所存であります。」等と語った。猪瀬都知事は、「日本

でこのニュースを待っていた都民・国民の皆様には感謝申し上げます。不確実な時代に新しい未来とは何かということ、2020年東京オリンピック・パラリンピックでお見せすることができるかと確信しています。」等と語った。

(2) 9月10日の帰国後記者会見

9月10日の帰国後の記者会見で知事は、「今回の招致の成功は、皆さんの声援とともにチーム日本が、素晴らしいチームワークで戦った、これが招致の実現に、大きな力をもたらしました。チーム日本が一丸となった結果、素晴らしい勝利を勝ち取ることができました。また、ライバル都市であったイスタンブール、マドリード、我々は、彼らと競い合うことによって、戦いの質をお互いに高めあうことができました。」等と語り、さらに、「我々は、オールジャパン体制で、2020年を最高の大会に仕上げなければいけない。そのためには、これまで努力してきた皆さんとともに、都民国民の大きな力を結集して、それぞれが出来る場所で、それぞれが出来ることを一緒にやろうではありませんか。

今後とも、みなさんのご支援をよろしくお願いいたします。」と大会開催に向けた決意を述べた。

